

文人について

古代中国においては、政治を行う上で文事と武事に職種を大きく分け、文事に携わる人を文人といいました。文人は国を治めるために、幼いころから勉学に励み学術と芸術双方に深い教養を身につけなくてはならなかったのです。そのために「万巻の書を読み、万里の路を行き」、様々な経験を必要としました。このため、文人の多くは皇帝も含む高級官僚でした。これらの人々は、煩雑な実務の合間のひと時を文房にこもり、彼らの教養と美意識によって選び抜かれた文房具に囲まれ、清閑な時を過ごすのを無上の喜びとしたのでしょう。

文房四宝

唐時代に書齋を文房と称し、この文房に備えられた大切な道具として挙げられたのが、筆・墨・硯・紙の「文房四宝」です。これらは古くよりその存在が知られていますが、唐時代に筆の装飾が始まるとともに、そのほかの墨や硯、装飾紙なども発達しました。

文房四宝において、特筆すべきは南唐(937~975)の存在といえます。李廷珪の墨、歙州における南唐官硯や澄心堂紙などは、天下に冠するものとして珍重されました。南唐の文化はその後の文房具に大きな影響を与え、滅亡の後には南唐王家の書画や文房の諸具は、宋の内府にそのまま移管され、宋の文人文化の隆盛へとつながっていきます。

宋時代には官僚試験である科擧の制度が強化され、学識によって政治に

携わるという自負心が、文人の矜持として重要なものとなりました。この科擧官僚を中心とした士大夫階級と、南唐時代に育まれた文房四宝の技術の向上によって、文芸が一段と華やかになり、一般にも広まっていきました。

その後、明時代には文化の隆盛によって万暦年間(1573~1620)に、書画や文房具の清玩が盛んになり完成期を迎えます。続く清時代には、康熙年間(1662~1722)から乾隆年間(1736~1795)にかけて明時代の文化を受け継ぎ、康熙帝と乾隆帝は硯を愛好し豪華な装飾の筆も作られるようになりました。特に乾隆帝は文人としても傑出しており、御墨を作らせ、南唐時代の墨や紙の倣製なども行いました。皇帝自ら硯を愛好したため、同時代の文人の多くが硯の収集に努め、中でも乾隆帝の勅命による『欽定四庫全書』の総編集を行った紀昀(1724~1805)の『閩微草堂硯譜』(1916)は、硯の参考資料として珍重されました。本展では『閩微草堂硯譜』以前の紀昀の硯譜(1802)を展示し、著名な文人が所蔵した文房具や、宝石のように美しい印材の逸品を展示します。



3

3. 竹節硯

清時代初期 端溪
縦:17.7cm 横:7.6cm 厚み:2.7cm

石の形を生かした半筒形の硯です。竹の切り口の繊維や芽や節の作りは、精緻に富んでいます。墨池(ぼくち)と墨堂(ぼくどう)に、魚腦凍(ぎょのうとう)と呼ばれる白い斑文がみられ、しっとりとした端溪(たんけい)の特徴ある作となっています。裏には清時代の文人呉楚奇(ごそき)を始め4人の銘が刻されています。

4. 桃花凍遊環鈕印

清時代中期 高:2.5cm 幅:1.2×1.6cm

印材は文房四宝に次いで、文人が珍重したものです。美しい質感と細かい篆刻に耐えうる硬度を持った石材は中国でも限られ、その中でも寿山、青田、昌化が産地として知られています。本作は寿山の高山から採掘され、紅色が白色の中に現れるのはごく少ないといわれる中で、紅色の部位だけで作られた珍しい印材です。



4



5

5. 鷄血平頂印

明時代後期
高:7.9cm 幅:2.2×2.2cm

昌化石は浙江省杭州市臨安区にあった昌化县を産地とし、その中でも有名なのが鷄血石です。本作は鷄血石の中でも貴重視される紅斑が灰白色の中に湧き上がったように現れたものです。近代日本の篆刻家として活躍した園田湖城(1886~1968)の旧蔵品です。

2. 方于魯魚符墨

明時代末期最 大長:7.9cm 最大幅:3.5cm

魚符は割符(わりふ)の一種で、それを模した墨です。両面がぴったりと重なるように作られ、所々に彩色の跡が残り、写実的な表現と漆のような質感によって、堂々たる存在感があります。方于魯(ほううろ)は明時代を代表する墨匠で、著名な墨譜の「方氏墨譜」(1588)を遺しています。



2

学芸員のおススメコレクション

大阪市立自然史博物館 生きている化石 メタセコイア

メタセコイアは、新緑、円錐形の樹形が美しいヒノキ科の落葉針葉樹です。身近な植物なので、日本に野生している植物と思えてしまいがちですが、中国原産の植物です。大阪平野には95万年前まで生育していました。メタセコイアは、元大阪市立大学の三木茂博士(1901~74)が、1941年に化石を元に発見・命名し、1945年に中国で生きているメタセコイアが見つかったため、「生きている化石」と呼ばれています。2018年5月、自然史博物館が収蔵している、「三木茂博士が収集したメタセコイア化石」が、大阪市指定天然記念物に指定されました。(大阪市立自然史博物館学芸員 塚腰 実)

※メタセコイア化石は、「大阪の自然誌」、第2展示室「地球と生命の歴史」に展示されています。第2展示室壁面には、メタセコイアのシルエットが描かれています。休館日:月曜日(月曜日が祝日の場合には、その翌日)

大阪市立自然史博物館 ●所在地 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 ●TEL 06-6697-6221 ●FAX 06-6697-6225 ●アクセス Osaka Metro 御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m。JR阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1000m。 ●ホームページ <http://www.mus-nh.city.osaka.jp>



メタセコイアの枝化石(神戸市産、約4000万年前、長さ約5cm)ネイチャースケア「大阪の自然誌」の展示標本。

大阪市立の博物館・美術館・動物園
Osaka Museums
<http://www.ocmo.jp/museums/>



大阪市立科学館 大阪市立美術館 天王寺動物園 大阪城天守閣
大阪市立東洋陶磁美術館 大阪歴史博物館 大阪新美術館建設準備室
大阪市立自然史博物館 大阪くらしの今昔館 大阪文化財研究所